Cultural aspects of natality regulations techniques

次にシンポジウムにおいても，人口学に関連をもつシンポジウムが一つ行なわれた．これは，Symposium No. 4 の "Selection and differntial fertility in human populations"（人類諸集団における淘汰と差別出生力）で，主として demographic data に基づいて，差別出生力（および差別死亡率）のはたらきによる集団における淘汰の機会や可能性の度合いを検討することを目的とした．

このシンポジウムは小林がプロモーターとして準備を進めてきたもので，Chairman には，米国 University of New Mexico, Department of Anthropology の Leslie Spier Professor J. N. Spuhler を依頼し，小林が Co-chairman をつとめた．報告者は，Chairman の Dr. J. N. Spuhler はじめ，Dr. J. Sutter（フランス・国立人口学研究所），Dr. D. F. Roberts（英国・ニューキャッスル・アポン・タイン大学），Dr. J. N. Neel（米国ミシガン大学）および筆者の5名であった．報告者・報告題目は次のとおりである．

Symposium 4　Selection and differential fertility in human populations

Sept. 5 : 9.00 - 12.00

Chairman : J. N. Spuhler (USA)

1. Spuhler, J. N. (USA)
   Opening remarks
2. Kobayashi, Kazumasa (Japan)
   Changing patterns of differential fertility in the population of Japan
3. Sutter, J. & A. Jacquard (France)
   Sélection par incompatibilité entre groupes sanguins et mesure démographique de la fécondité
4. Roberts, D. F. (U.K.)
   Differential fertility and the genetic constitution of an isolated population
5. Neel, J. V. (USA)
   Some aspects of differential fertility in two American Indian tribes
6. Spuhler, J. N. (USA)
   The maximum opportunity for selection due to differential fertility in some human populations

（小林和正記）

ODAシンガポール会議

The Organization of Demographic Associates（ODA と略称．東アジア，東南アジア，オセアニアにおける私的な人口研究機関連合組織であって，シカゴ大学人口研究所長 P. M. Hauser 教授の発意によるものである）は約3年間の準備会議を経て，今回初めて，シンガポール大学経済研究所において6月24日～29日にわたり開催されたものである．本研究所からも黒田俊夫人口移動部長が出席した．

参加国は韓国（人口問題研究所），日本，台湾，フィリピン，タイ，インドネシア，シンガポール，マレーシア，オーストラリアの9か国とアメリカ合衆国のシカゴ大学，ミシガン大学，ハワイ大学東西センターの代表者である．

会議の主要議題は，比較研究に最も効果の予想される（1）出生力，（2）健康と死亡，（3）家族と世帯の構

造，(4) 労働力とマンパワー，(5) 人口移動，(6) センサスに関する情報，(7) 人口学の教育と訓練などである．

参加者は16名の少人数に限定されており，小さなセミナー教室においてきわめて実質的な討議が行なわれた．会議の議長は Hauser 教授，副議長は You Poh Seng 教授がつとめた．本会議の最大の成果は，次の4個の task forces を編成し，それぞれの task force の実行準備会議の日程を決定したことである．

第1 task force：労働力とマンパワー（マニラにて12月2日から7日まで，Chairman：You Poh Seng）

第2 task force：家族と世帯の構造（バンコクにて12月9日から13日まで，Chairman：Stephen Yeh）

第3 task force：人口移動と都市化（東京にて11月21日から26日まで，Chairman：Kartono）

第4 task force：社会移動と社会開発（マニラにて11月25日から29日まで，Chairman：M. B. Concepción）

なお，ODA の組織規程を若干改正するとともに常設の事務局を編成した．Chairman に You Poh Seng 教授，Vice chirman に Mercedes B. Concepción 教授，Secretary/Treasurer に黒田俊夫（任期はそれぞれ3年とする）．日本側は Cooperating member となる．

（黒田俊夫記）

1967年世界（大陸・主要国別）人口

国際連合統計局（Statistical Office of the United Nations）は，このほど（本誌印刷中，10月）『世界人口年鑑（*Demographic Yearbook*）』の1967年版を公表した．今回発刊される年鑑は，1948年の第1集から数えて第19集めに当たる．この年鑑は毎回，トピック主義の編集が行なわれ，今回は前年の第18集に引き続き「死亡統計(2)」特集となっている．なお，1967年版も近く日本語版の刊行が予定されている（既刊分で日本語版が刊行されたのは，1960年の第12集と前年の第18集の2回である）．

これによると，1967年の年央における世界総人口は34億2千万人となっており，1966年からの1年間に，1.9% の増加率を示し，世界の人口が1日平均18万人増加した勘定になる．同年鑑は，この間に(1)人口の都市集中，(2)乳幼児死亡率の低下，(3)平均寿命の伸び，等の特色を指摘している．

この1.9% の人口増加率でいくと，世界の人口は，38年後の2006年には2倍になる．これは，産児調節の方法が進んでいるにもかかわらず出生率が上がっていることと，衛生学や医薬の進歩で死亡率が減っていることによると言えよう．現在の人口の地域分布は，全体の4分の3が低開発国に，また，半分以上がアジアに住んでいる．

世界人口のうち，19%は1,700以上に上る人口10万以上の都市に住んでいるが，これらの都市の数も10年前の2倍にふえている．また人口300万以上の都市は，東京，ニューヨーク，上海，モスクワ，サンパウロ，ボンベイ，カイロ，リオデジャネイロ，北京，ソウル，メキシコシチー，レニングラード，天津，大阪，カルカッタの15都市（シカゴとロンドンは行政区画による市の人口を掲げていないので除外）となっている．

乳児死亡率は引き続き低下しているが，国別の開きは依然として大きく，最低であるスウェーデンの12.6‰（出生1,000対）に対し，低開発国のなかには150‰を越えるものもある．

平均寿命（$\mathring{e}_0$）の最高はアイスランドの女子で76.2歳，ここ数年1位を独占してきたノルウェーの女子は75.97で2位に落ちた（いずれも1961～65年）．最近の統計数字が得られる範囲内で，世界の女子で70歳以上の寿命を示す国は38か国に上る．これに比べて男子の場合は，最高でもスウェーデンの71.6で，70歳を越えるのはわずか6か国にすぎない．年鑑に掲げられた121か国のうち，男が女より長命な国は6か国（インド，